

# 船舶事故調査報告書

令和元年12月18日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	令和元年8月11日 20時50分ごろ
発生場所	広島県三原市小佐木島北方沖 尾道糸崎港松浜東防波堤灯台から真方位209° 920m付近 (概位 北緯34° 22.6′ 東経133° 06.4′)
事故の概要	プレジャーボートアジサシは、東進中、錨泊中のプレジャーボート海航丸に衝突した。
事故調査の経過	令和元年8月29日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 海航丸、2.7トン 270-48449 広島、個人所有 B プレジャーボート アジサシ、5トン未満（長さ6.17m） 271-30211 広島、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、一級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 船首部外板に擦過傷 B 船尾部オーニングに折損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風速 約1.3m/s、視界 良好 海象：波高 約0.5m、潮汐 下げ潮の初期
事故の経過	A 船は、船長Aが1人で乗り組み、同乗者3人を乗せ、花火大会見物を終え、帰港することとして揚錨作業中、船長Aが、左舷船首方約50mに接近するB船の両舷灯を視認したのち、B船の緑灯だけが見えるようになったが、再度両舷灯が見えるようになり、右舷船首部にB船の船尾部が衝突した。 B 船は、船長Bが1人で乗り組み、同乗者5人を乗せ、花火大会見物を終え、帰港する目的で東進中、船長Bが、船首方にA船を視認したのち、めまいが生じ、めまいから開放され、間近に迫ったA船に気付いて右舵を取ったものの、A船と衝突した。 船長Bは、めまいが生じてから開放されるまでの間、B船がどのような進路を辿ったのか覚えていなかった。 船長Bは、本事故当日の朝から体調が優れなかったが、近距離の航行なので大丈夫と思い、夕方に出港していた。
分析	A 船は、錨泊中、船長Aが左舷船首方にB船を視認したのち、B船がA船に向けて接近し、B船が衝突したものと考えられる。 B 船は、東進中、船長Bが、船首方にA船を視認したのち、めまい

	が生じた状態で航行を続けたことから、A船を避ける時機が遅れ、A船に衝突したものと考えられる。
<b>原因</b>	本事故は、夜間、B船が東進中、船長Bが、船首方にA船を視認したのち、めまいが生じた状態で航行を続けたため、A船を避ける時機が遅れ、錨泊中のA船に衝突したものと考えられる。
<b>再発防止策</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 船長は、航行中、体調が優れずに操船に支障が出たときは、直ちに停船すること。</li> </ul>